



サンパウロの建築業、与那嶺シンジさん(39)のもとに11月中旬、来客があった。ペルーでレストランチェーン「ロッキーズ」を経営するアルマンド・キアンさん(44)。2人とも沖縄県出身の3世だ。

ブラジル日系社会④

連携強める沖縄出身者

メイン店に成長させた。「ブラジルでも店を出せるか」と可能性を探りに来た。キアンさんが滞在中の2週間、与那嶺さんは付きっきりで助けた。車に乗せてサンパウロ市内を回り、最も集客できそうな場所を探した。内装工事業者、会計士、弁護士、人材供給会社など出店に必要な業者を次々に紹介した。「これならいける」。キアンさんは半年以内にブラジル1号店を出す決意を固め、

地球に虫のがね



OKINAWAには独自銘柄のペンキもある。豊富な品ぞろえで人気は高い。サンパウロで、和泉写す

ペルーに帰っていった。

▽▽▽

キアンさんは5月、ボリビア中部のサンタクルスに国外1号店を出していた。この時も現地に住む沖縄出身の日系人から協力を仰いだ。

「世界ウチナーンチュ・ビジネス・アソシエーション(WUB)事務局

・那覇市」。沖縄県出身の移民がビジネス面で連携を強めようと、97年に設立された。約460人の会員の新規事業に資

▽▽▽

本を提供する制度を備えている。与那嶺さんは同じ年にできたブラジル支部の会長だ。支部は世界に

身というだけで会員同士が無報酬で手助けを惜しまない時だ。沖縄からの移民は世界に約27万人。うちブラジルが11万7千人で4割を占める。アルゼンチンとペルー、ボリビアを含めた4国では、19万5千人

った移民の10人に7人が、南米に集中していることになる。

▽▽▽

「助け合う気持ちときずな」の強いコチヤ人や華僑に追いつけ、追い越せ」との声が相次ぐ。「華僑をもじり、「琉僑」と呼ぶ国境を超えたネットワークづくりを目指す。サンパウロ東部の幹線道路沿いでひときり目立つ看板が「OKINAWA」だ。金物店を営む沖縄出身の若手16人が共同出資して、01年5月につくった実験店だ。1600平方メートルの売場に、金物やタイル、ペンキなど日曜大工材料が並ぶ。

「この16人を入れた沖縄出身の金物店経営者105人は、「ブルッポ沖」という共同仕入れのための団体をつくっている。メンバーのヒロシ・オナカさん(40)は、ボリビア生まれ。73年に家族でサンパウロに移った後、沖縄出身者の援助を受けたおかげで金物屋に転身できた。「沖縄の人たちは競争で一番苦しんだ。だからここに来て助け合う。それが幼いころから教わってきたことだ」

リーターの一人、具志堅正幸さん(40)は「06年までに実験店を中心にブルッポのメンバーの金物店を結び、お客の要望に応じた素早い集配態勢を整えたい」。看板や店の内装も統一し、105店で「金物屋版コンビニ」を目指す。(和泉聡)